

横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和3年9月号 目次

【トピックス】

新型コロナウイルス感染症の検査（2020年1月～2021年6月）	1
--	---

【検査結果】

海水浴場水質調査結果（令和3年度）	6
-------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（令和3年8月）	8
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和3年8月）	10
----------------------------	----

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

【トピックス】

新型コロナウイルス感染症の検査(2020年1月～2021年6月)

1 横浜市衛生研究所での新型コロナウイルス遺伝子検査

ウイルス担当では、食中毒・感染症等でのウイルス検査・研究を行っています。

現在流行中の新型コロナウイルス感染症(以下 COVID-19)においても、国内での検査開始期においては、その新たな検査の早期立ち上げ、実施を担ってきました。また、その後民間検査機関で行う検査数が充実した後は、地域内で実際に流行するウイルスの確保・把握や変異解析等も重点としながら、必要な検査を続けています。

今回は、2020年1月から2021年6月までに当所で実施した COVID-19 に関する検査概要及び実績について報告します。

COVID-19 は2019年12月の中華人民共和国湖北省武漢市での流行が確認された後、国内においては2020年1月28日に指定感染症に指定され、1月30日には、世界保健機関(WHO)が COVID-19 について、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態(PHEIC)」を宣言しました。

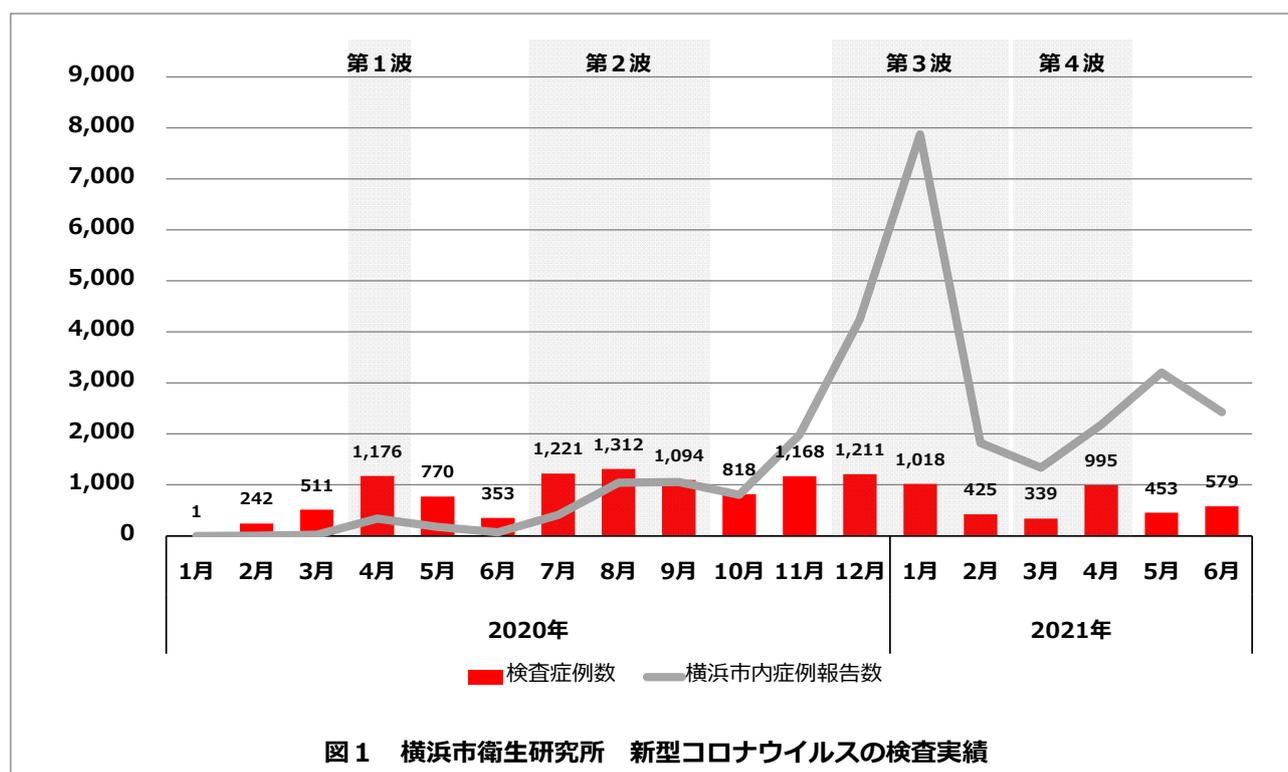
国内検査体制の確保には国立感染症研究所と全国の地方衛生研究所が取り組み、当所においても1月23日厚生労働省通知「新型コロナウイルスに関する検査対応について」を受けた RT-PCR(※1)検査系を立ち上げ、1月30日にはコンベンショナル RT-PCR(※2)を、2月1日にリアルタイム RT-PCR(※3)検査を開始しました。

※1 RT-PCR: Reverse Transcription Polymerase Chain Reaction の略

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)のような RNA ウイルスの際に、一旦 RNA から DNA を合成(逆転写)したのち PCR を行う方法

※2 コンベンショナル RT-PCR: RT-PCR 後にアガロースゲルでの電気泳動、染色をして目的のバンドを検出する方法

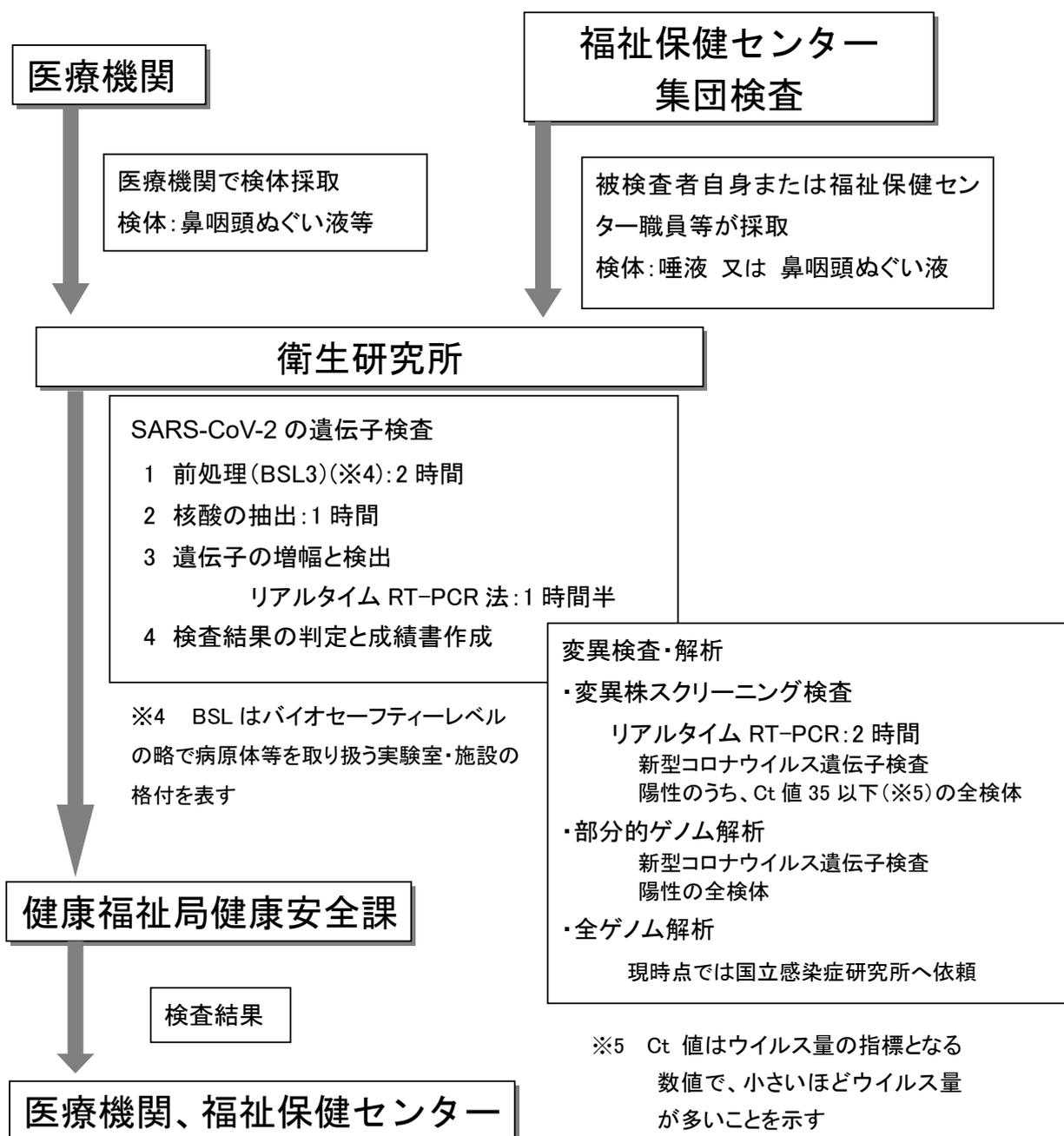
※3 リアルタイム RT-PCR: RT-PCR を行いながら同時に増幅をモニタリングする方法



2020年1月から2021年6月までの間、当所において、新型コロナウイルス(以下 SARS-CoV-2) 遺伝子検出 PCR 検査は、13,686 症例 14,131 検体について実施し、2,946 症例 (21.5%) 3,020 検体から SARS-CoV-2 遺伝子が検出されました。月別の検査症例数の推移を図 1 に示します。

2020年2月3日に横浜港に到着したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」内での感染蔓延事例では、2月初旬に検疫検査の応援を行いました。当該船での陽性者が横浜市内の医療機関にも多数入院したことから、退院のための陰性確認の検査依頼も増加しました。3月には首都圏を中心に感染が広がり始め、第1波とされる2020年4月には緊急事態宣言が発出され、当所での検査数も増加しました。その後第2波(2020年7月～9月)、第3波(2020年12月～2021年2月)、第4波(2021年3月～4月)と検査数は増加しました。

図 2 新型コロナウイルス検査の流れ



2 新型コロナウイルス検査の流れ

図 2 に当所での検査の流れを示します。

横浜市内の帰国者接触者外来設置医療機関等で採取された検体が当所に搬入され検査を実施しています。検体は当初「咽頭ぬぐい液又は喀痰」でしたが「鼻咽頭ぬぐい液又は喀痰」に変更され、現在では主に、1 症例から 1 検体「鼻咽頭ぬぐい液」が採取され検査を実施します。集団検査の場合には、採取が容易な唾液検体が用いられることもあります。検査はまず BSL3 という陰圧等を精密に保った検査室の中で、検査者も自ら感染することがないように防護服を着用して検体を処理します。PCR に進む試料液は、ウイルスを不活化した後 BSL3 から出します。その後、核酸を抽出し、SARS-CoV-2 特異的な塩基配列を増幅していく PCR によって、試料液中の SARS-CoV-2 の有無を判別します。リアルタイム RT-PCR という方法を用いると PCR を行いながら同時に増幅物を検出することが可能であり、1 時間半ほどで結果が得られます。得られた結果に間違いがないかを確認し、健康福祉局健康安全課を通じて医療機関等に返します。

3 変異検査・解析

上述の SARS-CoV-2 遺伝子の有無を確認する PCR 検査以外に、その検査で陽性になった検体については、変異を確認するための検査も行っています。変異株の種類や特徴については、以下 URL をご参照ください。

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2484-idsc/10501-covid19-48.html>

(国立感染症研究所ホームページ)

(1)変異株スクリーニング検査

2020 年 12 月には英国で最初に検出された変異株(B.1.1.7 系統、^{アルファ}株)について感染力が増加していると WHO が表明しました。南アフリカから最初に報告された変異株(B.1.351 系統、^{ベータ}株)、日本においてブラジル渡航者から検出された変異株(P.1 系統、^{ガンマ}株)、いずれもスパイク領域に N501Y 変異を有することから、リアルタイム RT-PCR 検査による N501Y の変異株スクリーニング検査が国立感染症研究所から提示され、当所においても 2021 年 2 月 13 日から検査を開始しました。

2021 年 6 月までに 383 検体の変異株スクリーニング検査を実施し、255 検体が N501Y 陽性でした。(この検査は、2021 年 7 月からは L452R 変異を確認するスクリーニング検査に切り替わっています。)

(2)部分的ゲノム解析

ウイルス遺伝子の塩基配列(シーケンス)を解読する手法の一つにサンガーシーケンス(サンガー法)という方法があります。このサンガー法を用いてスパイク領域のシーケンスを得ることにより、N501Y や L452R といったスパイク領域のキーとなる変異を確認し、これにより英国で最初に検出された変異株(B.1.1.7、^{アルファ}株)なのか、インドで最初に検出された変異株(B.1.617.2 系統、^{デルタ}株)なのか等、(1)の変異株スクリーニングより多くの情報を得ることができます。このサンガー法を用いた解析により得られた各変異株の検出数と割合を図 3 に示します。

2021 年 2 月初旬まで、ほとんどが L452R、T478K、E484K、N501Y の変異の無い「従来型」とされるウイルスでしたが、1 月から E484K の変異を有する R.1 系統の特徴を持つ株が横浜市でも検出され始め、4 月半ばまで変異株の主流でした。その後、2 月に検出され始めた B.1.1.7 系統(^{アルファ}株)の特徴を持つ株が増加し、4 月下旬には主流型となりました。また、B.1.617.2 系統(^{デルタ}株)の特徴を持つ株は、横浜市では 5 月から検出され始めています。

表1 新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) のPangolin系統の時系列推移

Lineage (Pangolin ⁴)	WHO	2020												2021						合計										
		西暦	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6											
A			1																					1						
B.1																								1	1					
B.12		2																							2					
B.1.1				1	4		1	1	1	3														1	1	16				
B.1.1.214							7	28	63	59	84	82												111	19	11	5	1	470	
B.1.1.284				1	23	44	52	24	13	12	6													5	1			181		
B.1.1.317																									1			1		
B.1.1.225											1																	1		
B.1.1.7	α																							11	15	54	48	36	164	
B.1.617.2	δ																									1	5	6		
B.1.346											1	1												5	1			8		
R.1																								2	12	17	19	3	53	
None																									2			3		
解析不能																									4	1		5		
合計		2	1	1	5	23	51	82	87	73	101	89												129	47	46	80	54	41	912

* 2021年7月7日時点のPangolin解析による

* * 横浜市衛研で陽性になった検体のうち、おおむねCt値28以下で同胞を除く代表検体について国立感染症研究所ゲノムセンターで解析

＜2021年第25週(6月27日まで)時点 解析数:525検体＞

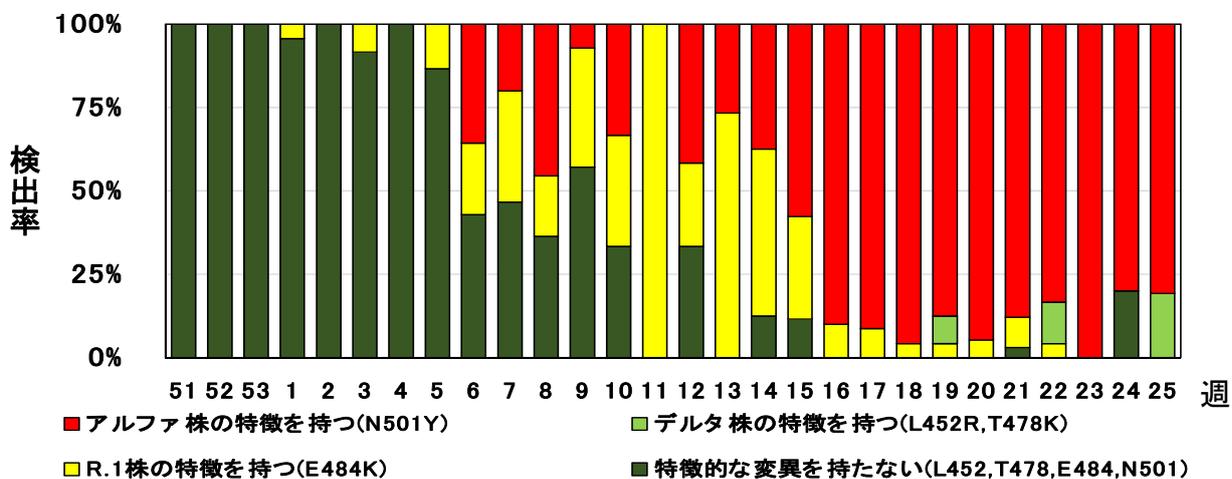
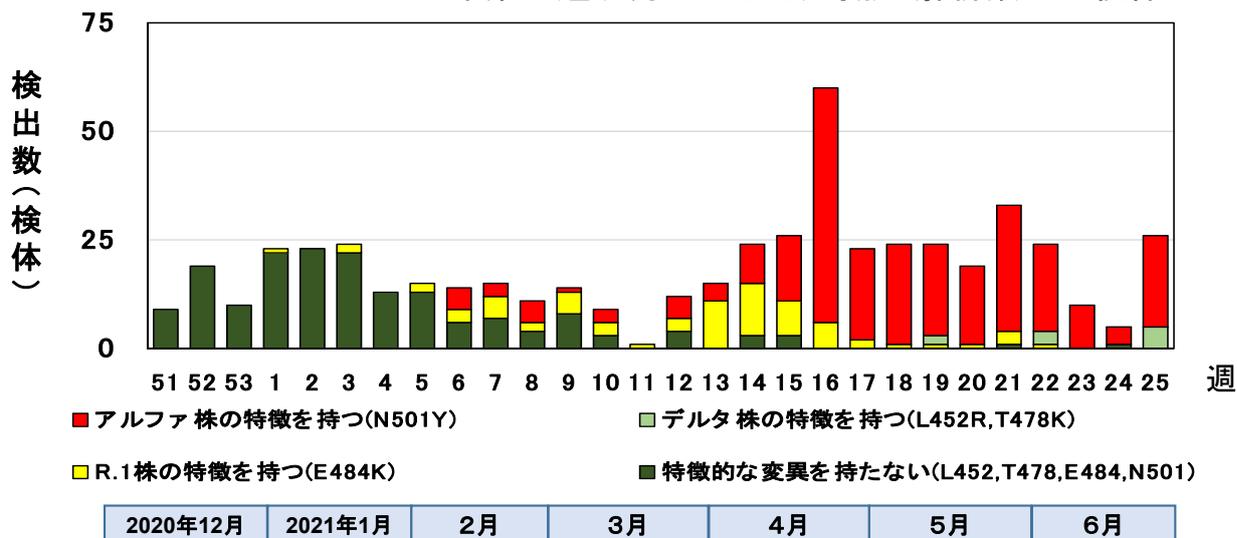


図3 新型コロナウイルスの部分的ゲノム解析(サンガーシーケンス)結果

(3)全ゲノム解析

さらに SARS-CoV-2 のゲノム全体を解析するために、厚生労働省からの 2021 年 2 月 5 日付「新型コロナウイルス感染症の積極的疫学調査における検体提出等について(要請)」を受けて国立感染症研究所へ検体を提供しました。ウイルス(SARS-CoV-2)が検出された検体のうち、次世代シーケンサーで解析可能であった検体について国立感染症研究所による Pangolin 系統の解析を実施した結果を表 1 に示します。英国で最初に検出された変異株(B.1.1.7)の割合が 2021 年 2 月から 6 月にかけて増加していました。

4 結語

COVID-19 は、ワクチン接種が国内でも始まりましたが、2021 年 7 月以降も過去最大の流行拡大(第 5 波)が発生しており、未だ収束を見ません。今後も地域内の流行を適切に捉え、この感染症対策に資するための検査を引き続き実施していきます。

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

海水浴場水質調査結果(令和3年度)

横浜市金沢区の「海の公園」海水浴場において、5月及び7月に環境省からの通知に基づく水質調査を行った結果を紹介します。

令和3年度は「海の公園」海水浴場は開設されましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により神奈川県内の一部の海水浴場は開設されていません。また、環境省による全国の「水浴場(開設前)の水質調査結果」のとりまとめは、令和2年度と同様に行われませんでした。



1 対象施設及び試料

(1) 対象施設: 「海の公園」海水浴場

(2) 採水日: 令和3年5月11日・12日及び7月13日・14日

(3) 試料: 「海の公園」沖3地点(沖左側・沖中央・沖右側)で、1日に2回(午前・午後)採水した海水。4日間で計24試料。

なお、採水は金沢福祉保健センターが環境創造局及び公益財団法人横浜市緑の協会の協力を得て行いました。

2 検査項目

水質評価項目及び参考検査項目を表1に示しました。

表1 検査項目

検査担当	水質評価項目	参考検査項目
福祉保健センター	油膜の有無、透明度	水温、気温、透視度、臭気等
衛生研究所	ふん便性大腸菌群数	腸管出血性大腸菌O157
	化学的酸素要求量(COD)	一般細菌数、pH

3 検査方法

「令和3年度水浴に供される公共用水域の水質調査結果の報告について」(環境省水・大気環境局水環境課長通知 令和3年3月31日付け環水大水発第2103316号)に基づいて行いました。

4 検査結果と判定区分

水質評価項目と参考検査項目の水質検査結果は表2のとおりでした。5月11日・12日の12試料の検査結果及び7月13日・14日の12試料の検査結果を用い、環境省通知で定められた方法で報告値を算出しました。その報告値を水浴場水質判定基準(表3)によって「適(水質AA、水質A)」、「可(水質B、水質C)」、「不適」の5段階に区分しました。

令和3年度は、油膜の有無、透明度及びふん便性大腸菌群数の3項目は「適(水質A)」の基準を満たしていましたが、化学的酸素要求量(COD)はいずれの月も「適(水質A)」の基準である「2mg/L以下」を満たさなかったため、判定区分については、5月は「可(水質B)」、7月は「可(水質C)」となりました。7月は雨が多く遊泳に適さない日が続きました。天候の回復を待って採水しましたが、5月のCODの平均値は3.7mg/L、7月の平均値は7.3mg/Lとなり7月が高い結果でした。平成17年度～令和3年度のCODの推移(沖右側地点午後)を図に示しました。例年CODは5月が低く7月が高めに推移する傾向です。

なお、昨年令和2年度の5月は「可(水質B)」、7月は「適(水質A)」でした。

表2 令和3年度「海の公園」海水浴場の水質検査結果

検査項目	5月		7月	
	11日	12日	13日	14日
油膜の有無	無 ^{*1}	無 ^{*1}	無 ^{*1}	無 ^{*1}
透明度(m)	1.0以上	1.0以上	1.0	1.0
ふん便性大腸菌群数(個/100mL)	2未満～2	2未満～2	2～22	2未満～8
COD(mg/L)	2.6～4.5	3.0～4.9	6.9～10	5.7～7.3
腸管出血性大腸菌O157(/3,000mL)	不検出	—	不検出	—
一般細菌数(cfu/mL) ^{*2}	2～8	1～3	27～63	3～14
pH	8.3～8.3	8.3～8.4	9.0～9.2	9.1～9.1

*1:「認められない」、*2:参考のため検査しており水質基準はありません

表3 令和3年度「海の公園」海水浴場の環境省への報告値及び水浴場水質判定基準

検査項目	環境省への報告値		水浴場水質判定基準				
	5月 (海水浴場開設前)	7月 (開設中)	適 水質AA	適 水質A	可 水質B	可 水質C	不適
水質判定区分	可 水質B	可 水質C	適 水質AA	適 水質A	可 水質B	可 水質C	不適
油膜の有無 最小～最大(平均)	無 ^{*1} (無 ^{*1})	無 ^{*1} (無 ^{*1})	無 ^{*1}	無 ^{*1}	無 ^{*2}	無 ^{*2}	有 ^{*3}
透明度(m) 最小～最大(平均)	1.0以上～1.0以上 (1.0以上)	1.0～1.0 (1.0)	1.0以上	1.0以上	0.5以上 1.0未満	0.5以上 1.0未満	0.5未満
ふん便性大腸菌群数 (個/100mL) 最小～最大(平均)	2未満～2 (2未満)	2未満～22 (5)	2未満	100以下	400以下	1,000 以下	1,000超
化学的酸素要求量 COD (mg/L) 最小～最大(平均)	2.6～4.9 (3.7)	5.7～10 (7.3)	2以下	2以下	5以下	8以下	8超
腸管出血性大腸菌 O157 (/3,000mL)	不検出	不検出	—	—	—	—	—
pH 最小～最大	8.3～8.4	9.0～9.2	—	—	—	—	—

*1:「認められない」、*2:「常時は認められない」、*3:「常時認められる」

(注) 判定については、水質評価する4項目(油膜の有無、透明度、ふん便性大腸菌群数、化学的酸素要求量)を用います。全ての項目が「適(水質AA)」の基準を満たす水浴場の判定は「適(水質AA)」となります。ただし、一つでも満たさない項目があると、その項目の基準を満たす区分が水浴場の判定となります。いずれかの項目が「不適」である水浴場を「不適」とします。

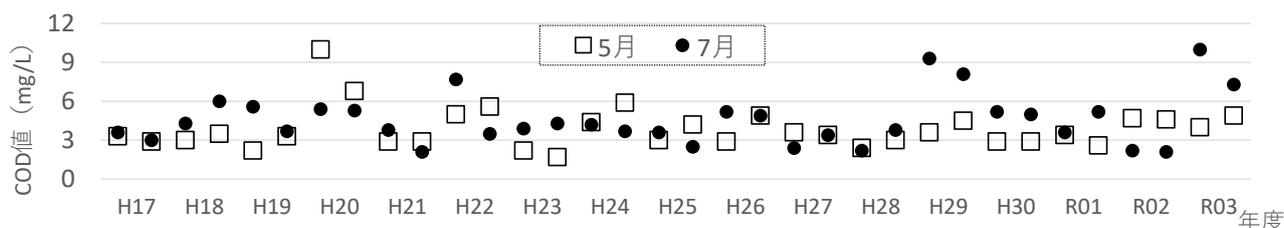


図 平成17年度～令和3年度 化学的酸素要求量(COD)の5月・7月の推移 沖右側地点 午後 (各年度2日測定)

【 理化学検査研究課 環境化学担当、微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報(令和3年8月)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和3年8月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数は市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和3年8月の総アクセス数は、212,560件でした。前月に比べ19.2%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*73.4%、保健情報16.4%、検査情報月報3.3%、生活環境衛生2.2%、食品衛生1.8%、薬事1.6%でした。

* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

8月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「ぎょう虫(蟯虫)症について」、2位は、「トキソプラズマ症について」、3位は、「パラインフルエンザウイルスについて」でした。9位には、「セレウス菌による食中毒について」が入っています。

表1 令和3年8月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	ぎょう虫(蟯虫)症について	11,198
2	トキソプラズマ症について	8,801
3	パラインフルエンザウイルスについて	8,336
4	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	6,535
5	大麻(マリファナ)について	6,530
6	EBウイルスと伝染性単核症について	6,414
7	水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について	6,370
8	横浜市感染症情報センタートップページ	5,060
9	セレウス菌による食中毒について	4,786
10	死亡率・致死率(致命率)・死亡割合について	4,470

データ提供:市民局広報課

「ぎょう虫(蟯虫)症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/gyou1.html>

「トキソプラズマ症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ta/toxoplasma1.html>

「パラインフルエンザウイルスについて」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ha/hpiv1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和3年8月の問い合わせは、1件でした(表2)。

表2 令和3年8月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
オフィスの衛生管理について	1

2 追加・更新記事

令和3年8月に追加・更新した主な記事は、12件でした(表3)。

表3 令和3年8月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
8月 3日	熱中症情報(2021年8月2日)	掲載
8月 6日	感染症に気をつけよう(8月号)	掲載
	全国熱中症患者救急搬送状況(2021年)	更新
8月10日	熱中症情報(2021年8月10日)	掲載
8月11日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第6回)	更新
8月17日	熱中症情報(2021年8月16日)	掲載
8月18日	全国熱中症患者救急搬送状況(2021年)	更新
8月24日	熱中症情報(2021年8月23日)	掲載
8月26日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第7回)	更新
8月27日	全国熱中症患者救急搬送状況(2021年)	更新
8月31日	熱中症情報(2021年8月31日)	掲載
	感染症に気をつけよう(9月号)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告(令和3年8月)

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数が急増していて、50代以下で9割以上を占めています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が多い状態が続いています。
- 梅毒の報告が続いています。
- RSウイルス感染症の報告数が第27週をピークにその後減少しています。

◇ 全数把握の対象

〔7月期に報告された全数把握疾患〕

腸管出血性大腸菌感染症	21件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	5件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	梅毒	14件
急性脳炎	1件	播種性クリプトコックス症	2件
クロイツフェルト・ヤコブ病	3件	百日咳	1件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157が10件(うち3件が無症状病原体保有者)、O26が3件(うち1件が無症状病原体保有者)、O111が2件、O121が1件、O145が1件、O103が1件(無症状病原体保有者)、O不明が3件(すべて無症状病原体保有者)の報告がありました。
- 2 レジオネラ症: 肺炎型5件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 3 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 4件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 急性脳炎: 10歳未満の報告が1件ありました(病原体不明)。
- 5 クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型CJD3件の報告がありました。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDS1件、その他1件の報告がありました。うち1件は同性間性的接触による感染が推定されています。
- 7 侵襲性肺炎球菌感染症: 80歳代の報告が1件ありました(ワクチン接種歴不明)。
- 8 梅毒: 早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件、無症状病原体保有者3件の報告がありました。男性10件、女性4件で、うち13件は性的接触(異性間11件、同性間1件、詳細不明1件)による感染が推定されています。
- 9 播種性クリプトコックス症: 2件の報告があり、うち1件が免疫不全によるものと推定されています。
- 10 百日咳: 10歳未満の報告が1件ありました(ワクチン接種歴不明)。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第30週～第33週に横浜市から報道発表のありました症例は19,589件でした。

◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

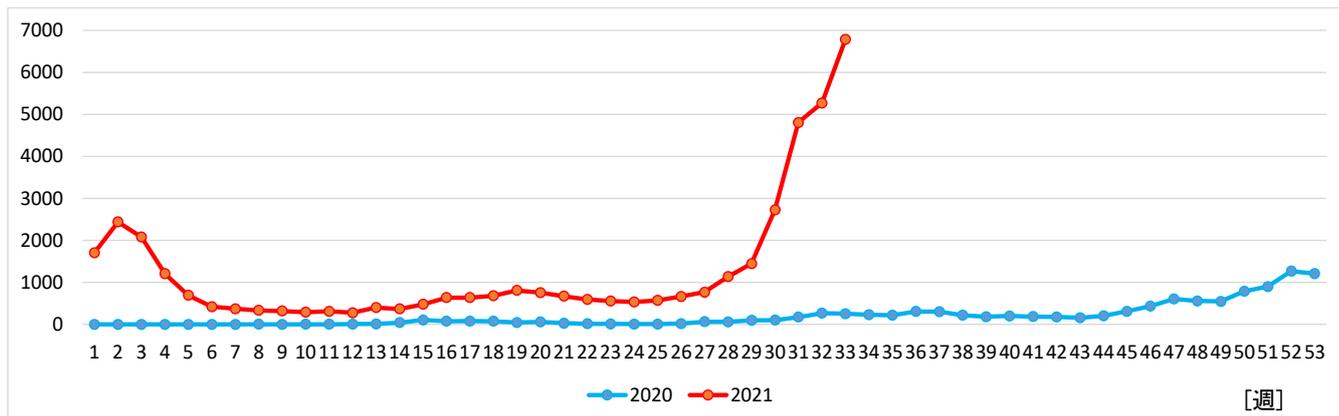
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

◆ 変異株の検出状況: 神奈川県 新型コロナウイルス感染症による患者確認について(8月25日版)

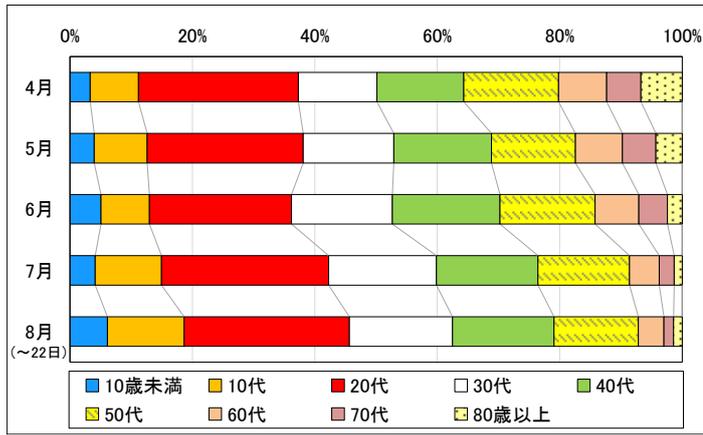
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/prs/r1796376.html>

1 報告数の推移

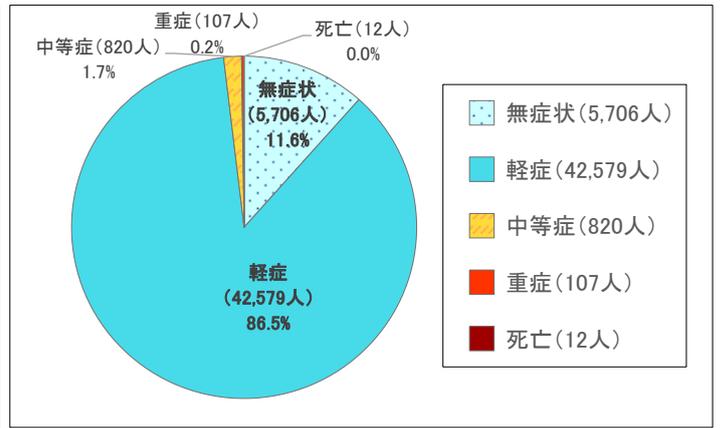
[人]



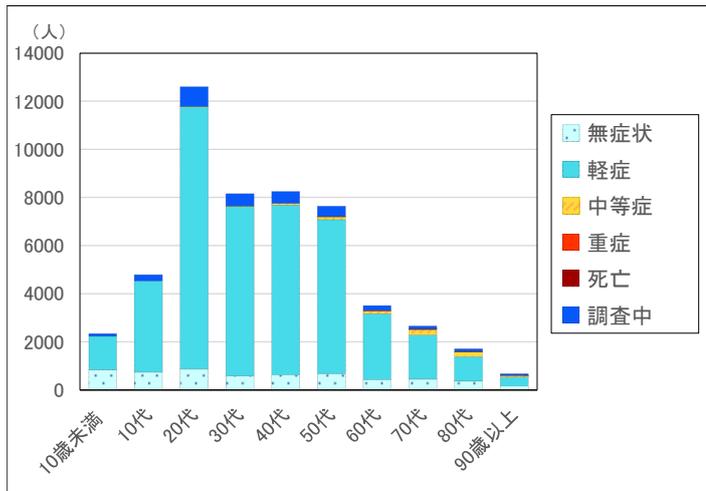
2 年齢別割合



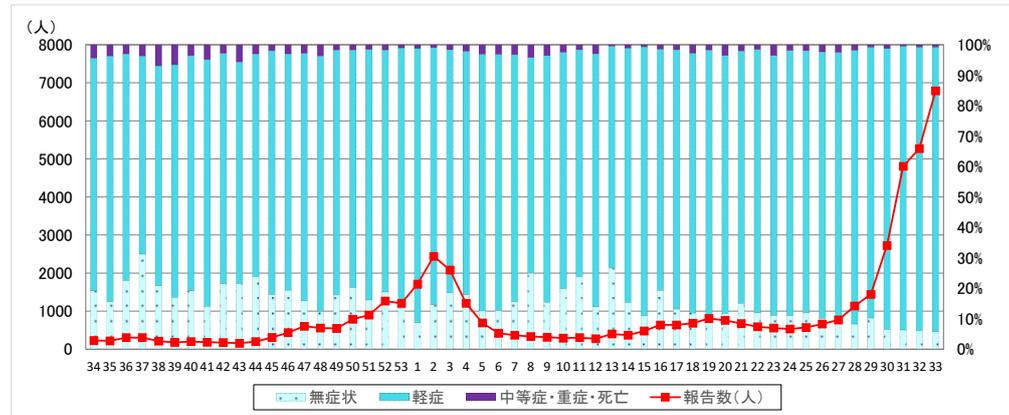
3 陽性確定時の症状の割合



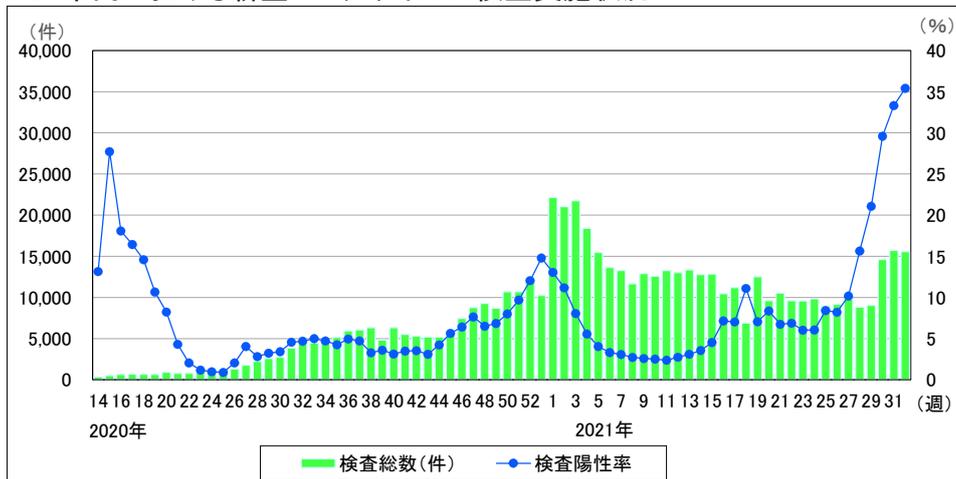
4 陽性確定時の症状別人数(年代別)



5 報告数と届出時点の重症度



6 市内における新型コロナウイルス検査実施状況

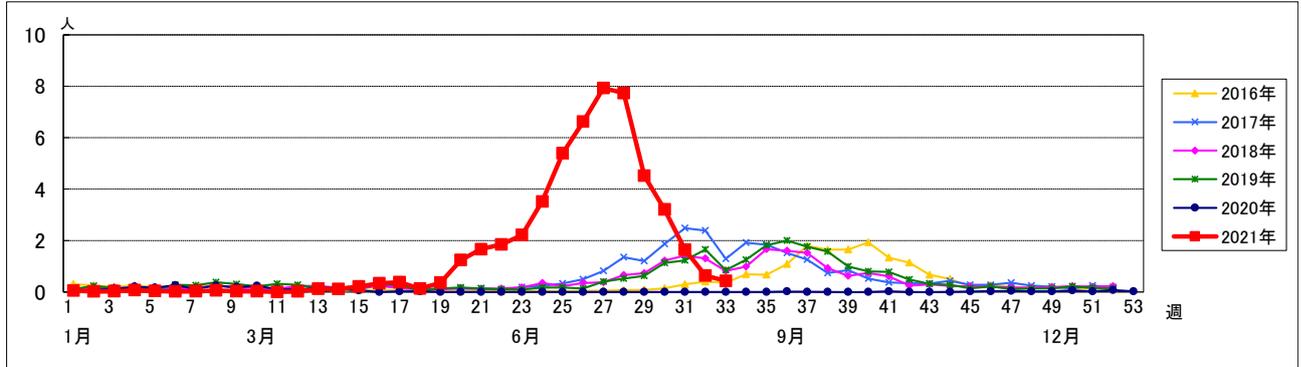


※ 検査総数: 医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

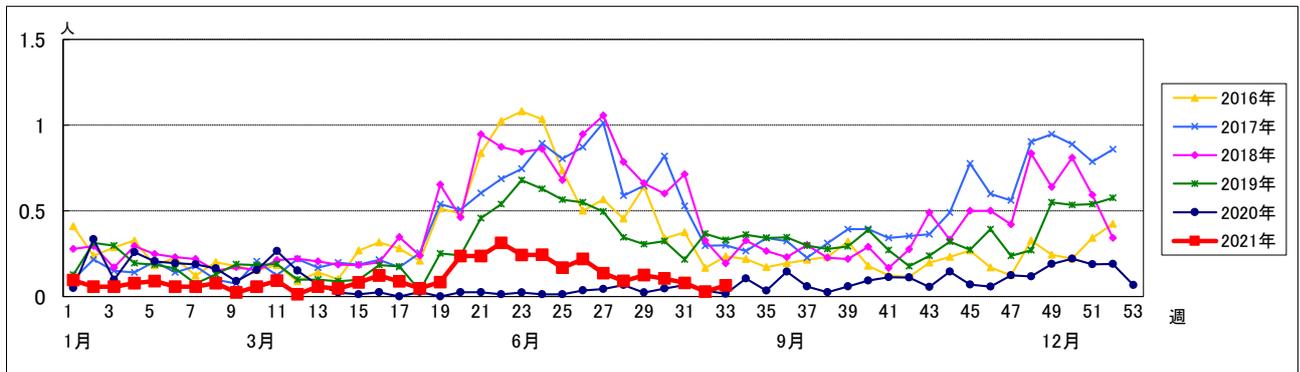
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第30週	7月26日～8月1日
第31週	8月2日～8月8日
第32週	8月9日～8月15日
第33週	8月16日～8月22日

1 RSウイルス感染症:5月頃より増加し、第27週に7.92まで増加しましたが、その後減少し、第33週は0.43となっています。



2 咽頭結膜熱:第33週は0.06と例年より低めの報告数で推移しています。



3 性感染症(7月)

性器クラミジア感染症	男性:33件	女性:21件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:3件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:3件	女性:4件	淋菌感染症	男性:24件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第30週	第31週	第32週	第33週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.33	0.00

5 基幹定点月報(7月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

8月期(2021年第30週～第33週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点27件、内科定点2件、眼科定点2件、基幹定点2件、定点外医療機関からは1件でした。

RSウイルス1件、パラインフルエンザウイルス4件、ボカウイルス1件、エンテロウイルス1件の各ウイルス遺伝子が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2021年第30週～第33週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	心 筋 炎
RSウイルスB		- 1	
パラインフルエンザウイルス3型	- 2	- 1	- 1
ボカウイルス	- 1		
エンテロウイルス		- 1	
合計	- 3	- 3	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

8月期(2021年第30週～第33週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点から腸管出血性大腸菌3件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、サルモネラ属菌1件、黄色ブドウ球菌1件の検査依頼がありました。非定点からの検査依頼はありませんでした。

保健所からは、腸管出血性大腸菌13件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件の依頼がありました。

「分離同定」の検査依頼は非定点からボレリアの検査依頼が4件、保健所からレジオネラ3件の検査依頼がありました。小児科定点からは検査依頼がありませんでした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2021年第30週～第33週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等
医療機関	基幹定点	腸管出血性大腸菌	3	O157 : H7 VT1 VT2 (1)、 O111 : H- VT1 VT2 (1)、 OUT : H+ VT2 (1)
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)
		劇症型溶血性レンサ球菌	1	G群溶血性レンサ球菌 (1)
		サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Thompson (1)
		黄色ブドウ球菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)
保健所		腸管出血性大腸菌	13	O157 : H7 VT1 VT2 (4)、O157 : H7 VT2 (3)、 O157 : H- VT1 VT2 (1)、O26 : H11 VT1 (2)、 O121 : H19 VT2 (1)、O103 : H2 VT1 (1)、 OUT : H45 VT1 (1)
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4	<i>Citrobacter koseri</i> (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)、 <i>Citrobacter freundii</i> complex (1)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)

分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
医療機関	髄液	ボレリア	1	ライム病群ボレリア 不検出(real time PCR) (1)、 回帰熱群ボレリア 不検出(real time PCR) (1)、 抗ボレリアIgM抗体 陰性(1)、 抗ボレリアIgG抗体 陰性(1)
		ボレリア	2	ライム病群ボレリア 不検出(real time PCR) (2)、 回帰熱群ボレリア 不検出(real time PCR) (2)、 抗ボレリアIgM抗体 陰性(2)、 抗ボレリアIgG抗体 陰性(2)
		ボレリア	1	ライム病群ボレリア 不検出(real time PCR) (1)、 回帰熱群ボレリア 不検出(real time PCR) (1)、 抗ボレリアIgM抗体 陰性(1)、 抗ボレリアIgG抗体 陰性(1)
保健所	喀痰	レジオネラ	3	不検出(3)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】